写真提供：フォート・キシモト

川野将虎（旭化成）

園田世玲奈（NTN）

明スポ

第107回日本選手権35キロ競歩

輪島競歩

START
4月16日（日）
8時00分～

明大スポーツ
4月15日土曜日
令和5年（2023年）
千代田区神田駿河台1の1
電話03（3233）3760
http://www.meisupo.net
瓦版

最後の切符は誰の手に
頂上決戦を見逃すな

長きにわたる日本代表の座を懸けた戦いも今大会が最後となる。ブダペストで開かれる世界選手権への切符をつかみ、栄光を手にするのは誰か。「世界一熾烈（しれつ）な頂上決戦」のラストステージが幕を開ける。

世界でも屈指の強さを誇る日本競歩。既に男子20キロWの日本代表が内定している池田向希（旭化成）、山西利和（愛知製鋼）は一昨年度の東京五輪で日本人初のメダルを獲得し、その名を世界に知らしめた。一見すると簡単なように思える競歩だが、ルールの中でいかに速く歩くかを突き詰めた、シンプルだからこそ洗練された美しさが光る競技でもある。この熱く華麗なる戦い。これこそが競歩を「奥深い」と言わしめるゆえんだろう。

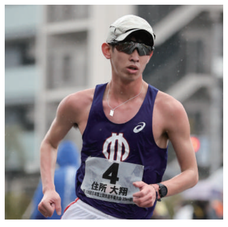
昨年10月に開催された全日本高畠大会から始まり、これまで幾度となく激戦が繰り広げられてきた。今大会も全国各地から強者がそろっており、白熱したレースとなることは明らかだ。その中で優勝候補を挙げるなら、男子部門の不動のエース・川野将虎（旭化成）は外せない。昨年度のオレゴン世界選手権では日本とアジア（当時）それぞれの最高記録を塗り替え、見事銀メダルを獲得。もはや国内では向かうところ敵なしといっても過言ではない。

その他にも同大会にて9位でフィニッシュした野田明宏（自衛隊体育学校）といったエース級の選手が数多く集まっている。

女子部門の注目選手は日本記録を保持している園田世玲奈（NTN）。オレゴン世界選手権では9位と惜しくも入賞とはならなかったが、自身が持つ日本記録を約40秒上回る結果を残している。初めての世界大会出場であることをみじんも感じさせない、堂々とした歩きで健闘を見せた。

15日（土）開催される全日本10キロW。男子部門からは住所大翔（順大）、女子部門からは梅野倖子（順大）が優勝候補の一角に挙げられる。次世代のエースはどのようなレースを繰り広げるのか、1秒たりとも見逃せない。

世界へと羽ばたくラストチャンスをつかむため、全国から猛者が一堂に会する競歩の聖地・輪島。プライドをかけた熱き戦いに終止符を打つ号砲が今、鳴り響く。【石井遥】


住所大翔（順大）

梅野倖子（順大）

サブイベント スピードウォーク

15日（土）11時30分からはスピードウォークが開催される。当日受付は可能で参加費も無料。1人でも多くの方に、日本陸連公認コースでのウォーキングをぜひ楽しんでもらいたい。

スピードウォークの様子

明スポ PICK UP

男子35キロWの注目は野田明宏（自衛隊体育学校）だ。昨年7月のオレゴン世界選手権に日本代表として出場したものの惜しくも9位と入賞には一歩届かず、世界との壁を痛感した。味わった悔しさを糧に再び世界大会に出場し、雪辱を果たしたい。また、野田と共に派遣設定記録を突破している松永大介（富士通）もこの種目にエントリー。リオ五輪で20キロW7位入賞の実績を持つが、近年は度重なるケガに苦しんできた。世界の舞台に舞い戻り、完全復活を果たせるかに注目が集まる。他にも東京五輪50キロ競歩に出場した丸尾知司（愛知製鋼）や勝木隼人（自衛隊体育学校）など日本トップクラスの選手がここ、輪島に集結する。

ブダペスト世界選手権の出場選手の選考も兼ねる今大会。オレゴン世界選手権で銀メダルを獲得した川野が今大会で参加標準記録・2時間29分40秒を切ればその時点で代表に内定。もしくは既に派遣記録を突破している野田や松永、今大会で新たに突破した選手の中で川野を除いた最高順位者が代表に決定する。激しい代表争いにも注目だ。

女子35キロWでは20キロWの日本記録保持者である絶対的レジェンド・岡田久美子（富士通）がこの種目のデビューを果たす。培った経験と持ち前の勝負強さを武器に代表入りを目指したい。

誰がこの戦いを制し、ブダペストへの切符を手にするのか。火花散る熱い戦いから1秒たりとも目が離せない。【原田青空】

次世代エース対決も必見！

男女ともに実力者が集結。勝つのは誰だ